明日への道標

子供たちを抱きしめて
―オードリー・ヘプバーンの夢―

㈱日本設備工業新聞社
代表取締役社長　高倉克也

バレリーナになりたかった。だが背が高すぎてトップダンサーであるプリマにはなれないと告げられた。でもこのまま終わるわけにはいかない。舞台俳優となってニューヨークのブロードウェイに進出し、やがて最高のチャンスが訪れる。

永遠の妖精と謳われたオードリー・ヘプバーン（1929―1993）は初の主演作『ローマの休日』で一躍脚光を浴び、アカデミー賞主演女優賞を獲得した。ハリウッドの黄金時代を象徴するスーパースターとして映画界の頂点を極める。

スイスに移住して平穏な日々を過ごしているときユニセフ＝国際連合児童基金から親善大使としての活動を依頼された。彼女自身も第二次世界大戦で助けられた子供たちのひとりだった。これこそが自分の使命だと世界中を駆けめぐる。

飢えと寒さから輝ける新星へ

オードリーはベルギーの首都ブリュッセルでイギリスの銀行家ジョゼフとオランダ貴族のエラの娘として生まれた。6歳のとき父が家庭を捨てて出て行き、母と共にオランダとイギリスで暮らす。父の不在は愛の欠如として少女を傷つけた。

オランダ在住中の1939年、第二次世界大戦の勃発によってオランダはヒトラー率いるナチス・ドイツに占領された。母はイギリス国籍の娘の身を案じ、偽名を名乗らせる。バレエを習っていたオードリーは反ファシズムを掲げるレジスタンス＝抵抗運動に協力して連絡役などを務めた。

当時のオランダは深刻な食料・燃料不足で飢えと寒さによる死者が続出した。オードリーもチューリップの球根を食べて窮乏生活を耐え抜いた。

オードリー・ヘプバーン

第二次世界大戦が1945年に終結し、ようやく平和な日々が戻ってくる。だがオードリーは多くの子供たちと共に栄養失調に苦しめられていた。ユニセフの前身となるUNRRA＝連合国救済復興機関から届けられた食料と医薬品によって救われる。

終戦後イギリスでバレリーナをめざす。しかし170cmの身長はプリマに不適と見做され、失意のうちに断念した。新たに演劇の世界で再起を期す。

転機はフランスの女性作家コレットと出会って訪れた。「私のジジを見つけたわ！」とオードリーを気に入り、コレット原作の舞台劇『ジジ』の主役に起用される。ブロードウェイ公演で『ジジ』は絶賛され、オードリーの名声も一気に高まった。

勢いに乗ったオードリーはウィリアム・ワイラー監督のハリウッド映画『ローマの休日』の主役に抜擢された。訪問中のイタリアで窮屈な暮らしから逃げ出した王女アンはグレゴリー・ペック演じるアメリカの新聞記者とかつてない素敵な一日

を過ごす。1953年に公開され、映画史に残る名作として熱烈に支持された。アカデミー賞、ゴールデングローブ賞、イギリス・アカデミー賞などの最優秀主演女優賞を受賞し、ハリウッドの輝ける新星として新作への出演依頼が殺到する。

人道とは人を幸福にすること

『ローマの休日』で大成功を収めたオードリーはその後も『麗しのサブリナ』（1954年）、『戦争と平和』（1956年）、『パリの恋人』『昼下りの情事』（1957年）、『尼僧物語』『緑の館』（1959年）、『許されざる者』（1960年）、『ティファニーで朝食を』『噂の二人』（1961年）、『シャレード』（1963年）、『マイ・フェア・レディ』（1964年）、『おしゃれ泥棒』（1966年）、『暗くなるまで待って』（1967年）などの話題作に出演。『ティファニーで朝食を』のオープニング・シーンでオードリーが着用した黒いドレスはジバンシィがデザインし、20世紀のファッション史を代表する衣装となった。ヘンリー・マンシーニ作曲の主題歌「ムーン・リバー」も世界的に大ヒットする。

私生活では二度の結婚・離婚でショーンとルカのふたりの息子をもうけた。スイス・レマン湖地方のトロシュナに移り住み、恋人となるオランダの俳優ロバート・ウォルダースと出会って穏やかな生活を楽しみながら後半生を過ごす。

ユニセフ主催のチャリティコンサートに招待され、東京などでスピーチを行うと各国から続々と依頼が舞い込み、1988年にユニセフ親善大使になることを引き受けた。オードリーは眼を輝かせて「私は全人生をこの仕事のためにリハーサルしてきて、ついに役を得たのよ」と語っている。

有名人の売名行為と言われても彼女はまるで気にしなかった。アフリカ、中南米、アジアなどの最貧国を訪れ、水道の整備、予防接種の普及、食料の供給などに奔走する。親善大使に就任して１年半後、オードリーは国連加盟国に「GNPの１％を途上国支援にあてよう」と呼びかけた声明文を発表した。「ユニセフは人道主義的な機関であって慈善団体ではありません。施し物を配り、福祉を実施するのではなく、発展を手助けするのが仕事です」「貧困は人災であり、その解決は平和であり、その実現は人間の義務です」「政治家は子供たちのことにまったく無関心です。でもいずれの日にか人道支援の政治問題化ではなく、政治が人道化する日がやってくるでしょう」「人道とは、人を幸福にすること、そして苦しみから救うこと。世界がひとつになるのが私の夢です」と訴える。

試練によって磨かれる美

親善大使として活動中、しばしば腹痛に悩まされるようになった。検査の結果、癌を患っていることが判明する。手術をして余命がわずかであることを知らされた家族は彼女の希望で最後となるクリスマスを一緒に自宅で過ごすことにした。

親族や友人が集まったディナーのあと苦労して２階から降りてきたオードリーはクリスマス・プレゼントを渡し、作家のサム・レヴェンソンが孫娘に宛てて書いた手紙を詩の形に書き直した「時の試練によって磨かれる美」を息子たちに読み聴かせた。「魅力的な唇になるために、やさしい言葉を話しなさい。愛らしい瞳を持つために、人の良いところを探しなさい。スリムな体型のために、お腹をすかした人に食べ物を分けてあげなさい。大人になれば、きっと自分にもふたつの手があることに気づくだろう。ひとつは自分を支えるために、もうひとつは誰かを助けるために」。その夜オードリーはベッドの中で「今年のクリスマスが今までいちばん幸せだったわ」と語っている。

意識を失うまえに「私のために笑って」と話したのが最後の言葉になった。63歳で劇的な生涯の幕を下ろす。葬儀には世界中からユニセフの関係者、ユベール・ド・ジバンシィ、アラン・ドロン、ロジャー・ムーアらが参列して永遠の別れを惜しんだ。オードリーはスイスの美しい景色を一望できる小高い丘の墓地に埋葬された。

自分の生涯を振り返って彼女は「女優としてのキャリアを活かした晩年の活動にこそ自分の本当の使命はあった」と述べている。国連の報道写真家はバングラデシュを訪れたときのオードリーの振る舞いを見て驚愕した。身体中に蝿がたかった子供たちに出会って他の人々は躊躇していた。

しかし彼女はまったく気にせず手を差し伸べて子供たちを抱きしめた。